

風土記の丘の花だより¹⁵⁸

今、そしてこれから見られる植物(2022年10月29日)

おかげさまで、これまで紹介した植物が前号で400種類を越えました。皆様方が見てくださればこそその数字です。ありがとうございます。これからも風土記の植物の魅力を紹介していきますので、続けてご愛読のほどお願い申し上げます。



ツワブキの花が咲いています。とても鮮やかな黄色の花で、遠くからでもよく目立ちます。漢字では「石蓂」という字を充てていますが、名前は「つやぶき・艶のあるフキ」がなまったものと言われています。確かに葉はフキのように大きく艶があります。万葉植物園には、八重咲きの別の種類もありますので、両方咲いたら見比べてみてください。



万葉植物園などでコウヤボウキが咲き始めました。上のツワブキと同じキク科の花ですが、見た目は全く違いますね。筒状の花が10個余り集まって、一つの花になっています。キク科では珍しく草ではなく、木に分類されています。別名を「うさぎかくし」ともいうそうで、ウサギがすっぽり隠れられるくらいにこんもりと繁ります。「コウヤ」は高野山の「コウヤ」です。



鮮やかな花を咲かせていたヒオウギが実を結んでいます。これを「ぬばたま」といい、髪、夜、闇など黒い物にかかる枕詞としていられています。たとえば万葉集には「ぬばたまの吾が黒髪を引きぬらし乱れてさらに恋ひわたるかも」という歌が残っています。冬おそくまで残っているので、そんなに慌てて観察しなくても、まだまだ見ることができます。今年は少ないですが、ワレモコウがずっと前から咲いています。前山A100号墳などに向かう坂の大きな右カーブの所です。あと100号墳の近くに少し咲いているだけです。この花はこんな姿ですがバラ科です。周りを探すとセンブリも見つかりますよ。でもこれも今年はとても少ないです。 松下

